

10 国際理解教育の進め方

(1) 国際理解教育の意義と役割

学習指導要領では、A I（人工知能）の発達による情報化やグローバル化が進む社会において「一人一人が持続可能な社会の担い手として」新たな価値を生み出すことが期待されている。

多様な事象が複雑さを増し、変化の先行きを見通すことが一層難しい予測困難な時代においては、地球温暖化などの世界の様々な問題を一国で解決することは難しく、我々一人一人が国際社会に生きる日本人としての自覚をもつとともに、国境を越えて相互に理解し合うことが重要になってきている。

異なる文化をもつ人々が、世界の中で協調・共生していくためには、相互の文化の共通性や相違を認識し、互いの価値観や生活様式などを受容・尊重しなければならない。このような認識と実践的な態度や資質・能力を育成していくことが国際理解教育であり、全ての教育活動を通して推進していく必要がある。

(2) 国際理解教育を進めるに当たっての基本的な考え方

国際理解教育は国や人種の違いを越え、互いの人権を敬う精神を涵養する教育である。したがって、学校の全ての教育活動において、国際理解教育を進めるという観点に立ち、教育課程を編成する必要がある。教育課程の編成に当たっては、次のようなことに留意したい。

ア 国際理解教育やの基本方針や教育目標を明確にし、職員の共通理解を図る。

イ 国際理解教育の基本方針を踏まえ、全体指導計画を作成する。

ウ E S D（持続可能な開発のための教育）の事例を参考にしつつ、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動、総合的な学習（探究）の時間における具体的な年間指導計画を作成する。

(ア) 各教科等における指導内容を国際理解教育等の観点から検討し、関連のある内容を指導計画に位置付け、指導内容を精選する。

(イ) 学校や地域の実態を踏まえ、児童生徒に興味・関心をもたせる身近な教材を使用し、体験的な学習を工夫する。また必要に応じて、児童生徒に対する日本語教育の充実を図る。

(ウ) 外国人留学生との交流やA L T、C I R（国際交流員）等との交流、ボランティア活動、姉妹校との交流などを通じた国際理解教育を積極的に推進する。

(3) 国際理解教育で育てる資質・能力

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ 広い視野をもち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化をもつ人々と共に生きていく資質・能力の育成を図る。【異文化理解・共生の態度】○ 国際理解のために、日本人として、また、個人としての自己の確立を図る。【自己理解・他者理解】○ 国際社会において相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できる基礎的・基本的なコミュニケーション能力の育成を図る。【コミュニケーション能力の育成】 |
|--|

(4) 各教科等における国際理解教育の進め方

国際理解教育は、単に社会科、外国語科の特定の教科等のみで行われるのではなく、学校の全教育活動で行われるものである。

各教科等の指導に当たっては、その指導目標が直接に国際理解教育につながるものではなくても、取り上げる題材に国際理解のねらいを加えることにより、国際理解教育を推進していくことが大切である。その際、年間指導計画の中にこれらのねらいを示し、計画的に進める必要がある。

〔各教科等における国際理解教育の主なねらいの例〕

教科等	国際理解教育のねらい
国語	- 豊かな表現力や理解力を育てるとともに、幅広い言語活動を通して、社会、文化、自然等について考えさせる。 - 日本文学や外国文学などを通して、自国の文化や異文化を理解させる。 - 国語に対する認識や関心を深めさせ、国語を尊重する態度を育てる。
社会 地歴・公民	- 諸外国の人々の生活や文化を理解し尊重するとともに、我が国の文化と伝統を大切にする態度を養い、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。 - 広い視野に立ち、我が国の国土や歴史、外国との関わりなどについて理解を深めさせるとともに、我が国の国際的役割を理解させる。 - 国際協力・国際協調の精神等、国際社会に生きるために必要な公民的資質の基礎を養う。
理科	- 地域と共に生き、互いに関わり合いながら生きていく人間として、世界の人々と協調していこうとする態度を育てる。 - 我が国の自然や世界の自然を理解させるとともに、国際的な協調の下、地球の環境保全を図っていこうとする態度や能力を養う。
音楽	- 我が国や諸外国に古くから伝わる音楽に親しませ、文化や習慣を理解させることにより、生活の中で音楽の果たす役割について理解させる。 - どの国の音楽であっても、その表現を素直に受け入れ、そのよさを認める心情や態度を育てる。 - 音楽を通じた文化交流の大切さを理解させる。
図画工作 美術	- 我が国や諸外国の美術作品や児童生徒の作品などのよさや美しさなどに関心をもって鑑賞したり、理解したりさせる。 - 我が国や世界の美術文化の理解を通して、相互の文化の関わりや美術文化と人々の生活との関わりに気付かせる。 - 美術文化の交流が国際理解や国際親善に大きな役割を果たしていることを理解させる。
体育 保健体育	- オリンピックや国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解させる。 - スポーツは、民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けていることを理解させる。
家庭 技術・家庭	- 我が国の人々の衣食住について理解させる。 - 気候や風土、人々の気質や宗教などによって、その伝統や文化が異なることに気付かせるとともに、それぞれの国の衣食住の文化に対する興味・関心を高める。
外国語	- 国際社会に生きる日本人として、世界の人々と協調し、国際交流等を積極的に行っていくことができるような資質・能力の基礎を養う。 - 外国語の学習を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、生徒一人一人の視野を広げ、異文化を理解し、尊重する態度を育てる。
道徳	- 我が国や郷土の文化、伝統を大切にする心や先人の努力を知り、我が国や郷土を愛する心情を育てる。 - 他国の人々や文化について理解させるとともに、日本人としての自覚をもって世界の人々と仲良く交流しようとする心情や態度を育てる。
外国語活動	- 日本と外国との生活、習慣、行事等の違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付かせる。 - 異なる文化をもつ人々との交流等を体験させ、文化に対する理解を深めさせる。
特別活動	学級（ホームルーム）活動、児童（生徒）会活動、学校行事などを通して互いを理解し、関わり合う心を育てるとともに、外国の習慣や異なった文化に対する関心と理解を深め、自ら判断し、積極的に行動しようとする態度を育てる。
総合的な学習 （探究）の時間	問題の解決や探究的な活動を通して、諸外国の生活や文化などを体験するなどの学習活動を行い、我が国や外国の人々の生活、文化、言語などに興味をもたせるとともに、国際理解を深め、自己の生き方を考えさせる。

[実践例]

- (1) 学年（教科等） 小学校 第4学年 （外国語活動）
- (2) 単元名 「Hello, World! 世界のいろいろなことばであいさつをしよう」
(Let's Try! 2 Unit 1)

(3) 単元の目標

- ア 様々な挨拶の仕方があることに気付くとともに、様々な挨拶の言い方に慣れ親しむ。
- イ 友達と挨拶をして、自分の好みなどを伝え合う。
- ウ 相手に配慮しながら、友達と挨拶をして、自分の好みなどを伝え合おうとする。

(4) 本時の目標（1／2）

様々な挨拶の仕方があることに気付くとともに、様々な挨拶の言い方に慣れ親しむ。

(5) 本時の実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点（◆国際理解の視点）
導入	1 挨拶をする。 2 歌（Hello Song）を歌う。	5分	- 全体に挨拶をして、個別にも挨拶をする。 - 児童と一緒に歌う。
展開	3 単元の学習目標を確認する。 世界の人々はどんな挨拶をしているのかな。 4 世界の人々の挨拶に触れる。 - 世界各地の人々がどのようなやり取りをしているかを予想する。 （予想される児童の反応例） - 日本語のみ縦書きである。 - 中国と日本語は、「。」が付いている。 - アメリカとニュージーランドの挨拶は同じである。 - 様々な文字がある。 - アルファベットの文字を使っている国や地域が複数ある。 など - Let's Watch and Think 1 の映像を見て、世界の様々な国の挨拶について、気付いたことを友達と伝え合う。 （予想される児童の反応例） - 長い挨拶や短い挨拶がある。 - 挨拶の仕方が様々である。 - 日本と同じようにお辞儀をする国もある。 など 5 様々な国のことばで挨拶をする。 - Let's Listen 1 の音声を聞いて、どの国の挨拶かを考えて友達と確認する。 - Let's Play の活動を基にして、教室を歩いて回り、友達とペアになり挨拶をし、好きなものを伝え合う。	33分	- 第4学年での外国語活動の第1時であるため、これから昨年度の活動を踏まえ、世界の人々に目を向けながら、外国語に親しんでいこうとする意欲を高めるようにする。 - Let's Try!の誌面を使い、挨拶をしている様子や、ジェスチャーや各言語の文字の違いに気付くような声掛けをする。 - 日本との違いや共通点など、興味・関心を高めながら映像資料の視聴につなげる。 Let's Watch and Think 1の映像で流れる英語（アメリカ） クリス： Hello. I'm Chris. メアリー： Hello, I'm Mary. （ロシア） ミハイル： Здравствуйте. (ズドラーストヴィチェ) I'm Mikhail. アンナ： Здравствуйте. (ズドラーストヴィチェ) I'm Anna. （サウジアラビア） アリ： السلام عليكم (アッサラームアレイコム) I'm Ali. シンバ： وعليكم السلام (ワアレイコムッサラーム) I'm Simba. （インドネシア） エバ： Selamat siang. (スラマッシアン) I'm Eva. デビ： Selamat siang. (スラマッシアン) I'm Dewi. - 指導者は、モデルとして、挨拶の後に自分の好きなものを紹介し、それらを好きかどうかを数名の児童に尋ね、児童の好きなものを引き出すようにする。 - 数名の児童に好きなものを尋ねるなどして I like ～. の表現を思い出させるようにする。 - ペアで世界の挨拶から一つ選んで、ジェスチャーを交えながら挨拶をさせる。相手を替えて、活動を繰り返す。
終末	6 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 7 歌（Goodbye Song）を歌う。 8 挨拶をする。	7分	児童の英語を使おうとする態度でよかったところについて称賛する。